



松山赤十字病院

日本赤十字社

Matsuyama Red Cross Hospital

Cancer News



Doctor's Voice

血液がん（血液内科）

“日進月歩の血液がん治療”

血液内科部長 浦田 真吾

肝臓がん（肝胆膵内科）

“一人ひとりに最適な肝細胞癌治療を”

肝胆膵内科副部長 越智 裕紀

What is...?

がんゲノム医療

mrc Place

がん相談支援センター



日進月歩の 血液がん治療

血液内科部長
浦田 真吾

血液の成分の中の血球には白血球、赤血球、血小板がありますが、全ての血球は骨髄の造血幹細胞から生まれます。造血幹細胞はいわば親の細胞であり、造血幹細胞から分かれた若い細胞たちは、それぞれが成熟して大人の血球となります。これを分化、成熟といいます。血液がんはこの分化、成熟の過程で遺伝子に傷がはいり、若い細胞ががんになってしまうことで起こります。代表的な血液がんとして、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫が挙げられます。

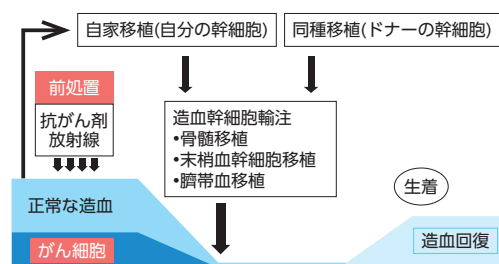
血液がんは全身の病気ですので、基本的に全身の化学療法が必要です。近年、抗がん剤に加えて、特定の分子やたんぱく質などを標的にした分子標的治療薬や抗体薬によって、有効性が高く副作用が少ない治療が行えるようになってきています。また、二重特異性抗体やCAR-T療法など新しい治療も出てきています。化学療法だけでは治すことが難しい場合、造血幹細胞移植の適応が検討されます。2021年に移植後大量エンドキサンを用いたHLA半合致移植が保険適応となり、血縁ドナーが見つかりやす

くなり、比較的高齢でも行えるミニ移植の普及と合わせて造血幹細胞移植の適応は広がっています。

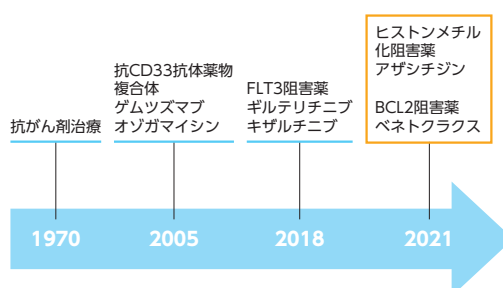
当院では細胞治療室という14床の防護環境を持つエリアが新たに開設され、治療強度の強い化学療法や造血幹細胞移植を、より安全な環境で行うことができるようになりました。造血幹細胞移植は患者さんの体にも負担が大きい治療になりますが、それぞれの患者さんにとっての最適な治療を提供できるように、医師、看護師、薬剤師、理学療法士、検査技師など様々な職種が協力して、患者さんを中心としたチーム医療を実践しています。

血液がんは診断を付けることで十分な治療を行うことができる可能性がある病気です。補助療法やハード面の進歩に加え、各分野で新しい治療が登場し、全体の治療成績は良くなってきています。治療は大変なこともあります。明るく前向きに取り組んでいただければ幸いです。

造血幹細胞移植の流れ



急性骨髄性白血病の新規治療薬





一人ひとりに 最適な肝細胞癌治療を

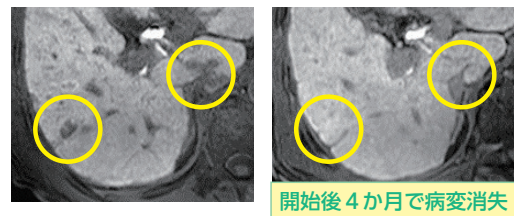
肝胆膵内科副部長
越智 裕紀

肝細胞癌は大多数が原因となる肝疾患が存在します。肝細胞癌の治療は、原因となる肝疾患と肝細胞癌そのものの治療の2つを考えて治療しなければなりません。

原因肝疾患はC型肝炎が大多数でしたが、特殊な事例を除いてほとんどのC型肝炎は治療が可能で、治療薬は副作用もほとんどなく治療成功率は95%以上です。また肝細胞癌治療後でも根治すれば治療薬は使用可能となっており、術後の生存期間が飛躍的に伸びています。また現在は、肥満やアルコール多飲などの生活習慣による脂肪肝からの肝細胞癌が増加中です。肝細胞癌は進行しても自覚症状がないことが多く、肥満やアルコール多飲などある方は定期的な健診をうけて、異常を指摘されれば早めの専門医受診をお願いします。

肝細胞癌そのものの治療も、この5年で劇的に進化しております。根治術の肝切除やラジオ波、マイクロ波焼灼術は、デバイスや技術の進歩によってさらに低侵襲な治療となっています。また、根治術が不能な進行肝細胞癌の全身化学療法は目覚ましく進歩しています。適応できる方の条件はあ

アテゾリズマブ+ベバシズマブ治療奏功例



りますが、免疫チェックポイント阻害剤のアテゾリズマブとVEGF抗体薬のベバシズマブの併用療法（AB療法）が2020年9月に適応承認されました。2016年までは1種類のみであった全身化学療法は、2次治療を含めて現在6剤が使用可能となりました。AB療法における完全消失率は20%以下ですが、写真の様に数回の投与で消失することもあります。

肝細胞癌の治療は、肝疾患の状態と肝細胞癌の状態の両方を見極めて、治療をすることが最も大切です。当院では、根治術から全身化学療法まで多彩な治療ができます。当科では患者さん一人ひとりにあった、ベストな治療が提供できるように、日々研鑽をつんでおります。

肝細胞癌治療の全身化学療法の進歩

2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021

ソラフェニブ



レゴラフェニブ



レンパチニブ



ラムシルマブ



カボサンチニブ



アテゾリズマブ+ベバシズマブ



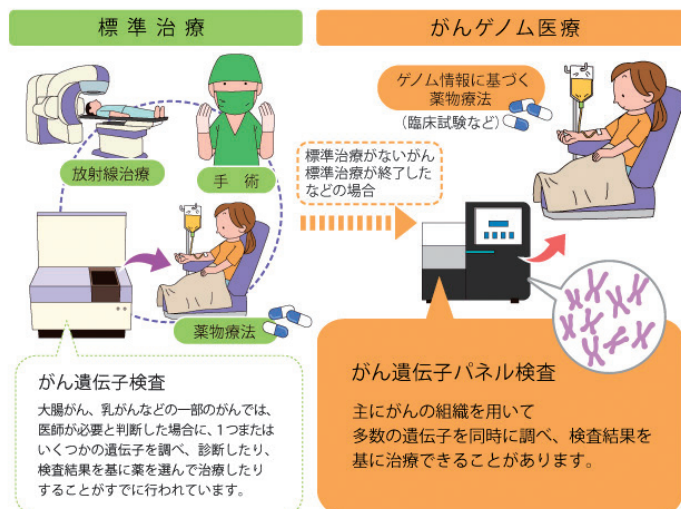
What is…?

がんゲノム医療

がんは様々な遺伝子の異常が積み重なることで発症し、その遺伝子の異常は個々の患者さんごとに異なることが近年の研究により判ってきました。「がんゲノム医療」とは、主にがんの組織を用いて、多数の遺伝子を同時に調べ、遺伝子変異を明らかにすることにより、一人一人の体質や病状に合わせて治療などを行う医療です。現在、全国にがんゲノム医療中核拠点病院やがんゲノム医療拠点病院、がんゲノム医療連携病院が指定され、全国どこでもがんゲノム医療が受けられるようになることを目指した体制づくりが進められています。

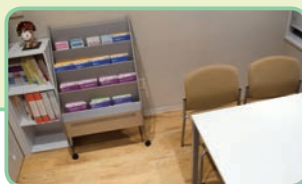
そして、2020年1月1日付で当院もがんゲノム医療連携病院に指定されました。これにより、地域がん診療連携拠点病院として地域のがん診療を担う当院も新たな一歩を踏み出しました。検査を必要とする患者さん一人一人と向き合いながら診療を行っています。

がんゲノム医療に関するご質問等がございましたら、担当医にお尋ねください。



出典：国立がん研究センターがん情報サービス

mrc Place



がん相談支援センター

がんと告げられたとき、治療や療養生活の中で「誰に相談したらいいかわからない」と思うことはありませんか？がん相談支援センターでは、がん患者さんやご家族の心配事や気がかりの相談をお受けし、一緒に解決できるようなお手伝いをさせていただきます。相談は無料です。

Q 誰が相談にのってくれるのですか？

A がん相談の研修を受けた専任の看護師・医療ソーシャルワーカー・公認心理師がお伺いします。内容によっては、がん専門の職種が対応します。

Q どこに連絡すればいいのですか？

A がん相談支援センターに連絡し、予約をお取りください。落ち着いた個室でお伺いします。予約外の相談も可能ですが、予約の方を優先させていただきます。



連絡先：089-926-9630 場所：がん相談支援センター（北棟2階、21エリアつきあたり左側）



<https://www.matsuyama.jrc.or.jp/visiting-us/cancer-info/>



松山赤十字病院 がん診療推進室

〒790-8524 愛媛県松山市文京町1番地
TEL089-926-9630 FAX089-926-9614

Cancer
Matsuyama Red Cross Hospital
Cancer News
SPRING 2022